

平成22年 4月1日現在

研究種目：基盤研究 (B)
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18320013
 研究課題名 (和文) 科举に関する文献学的総合研究
 研究課題名 (英文) Philological general research on keju-examination system
 in old-time China
 研究代表者
 佐藤 錬太郎 (SATO RENTARO)
 北海道大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：40196291

研究成果の概要 (和文)：200字

国際的な学術動向を踏まえた上で研究交流を推進し、国内外の研究者と協力関係を構築した。最終年度には、中国の科学学会「中華炎黄文化研究会科举文化專業委員会」及び台湾国家科学委員会研究計画「清代經典詮釋方法与理論的轉向」の協力を得て、2009年8月に北海道大学において、「科举と中華伝統文化」を主題とする科举学国際シンポジウムを開催し、国内10名国外20名の科举研究者を招聘し、科举学の最新の研究成果を発表した。

研究成果の概要 (英文)：

We based on the international trend of research and promoted study exchange . We built a cooperative relationship with domestic and abroad researchers. Under cooperation with China academic meeting of Chinese Kaju-examination system in old-time "Zhonghua Yanhuang Wenhua Yanjiuhui's Keju Wenhua Zhuanye Weiyuanhui " and Taiwan Government Science Committee's study plan " Qingdai Jingdian juanshi fangfa yu lilun de zhuanxiang", we held The International Conference on Imperial Examination System and Study of Imperial Examination in 2009 Sapporo. We invited 10 Japanese reserchers and 20 foreign researchers . We announced the latest study results.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	7,300,000円	2,190,000円	9,490,000円
2007年度	2,700,000円	810,000円	3,510,000円
2008年度	2,300,000円	690,000円	2,990,000円
2009年度	2,000,000円	600,000円	2,600,000円
年度			
総計	14,300,000円	4,290,000円	18,590,000円

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：中国哲学、科举、経学

1. 研究開始当初の背景

科举を機軸に据えた学術・文化史は、近年、

特に国外において高まりを見せ始めている。劉海峰氏が、「“科举学” 趣議」（『厦門大学学報（哲学社会科学）』1992年第4期）の中で、「科举学」という用語を用い始め、「科举文献与『科举学』」（『台大歴史学報』第32期、2003年）と題する論文の中でも、「現代の『科举学』は、中国と他の東アジア国家の歴史上に存在した科举制度とその運用の歴史を研究対象とする専門の学術分野である」（同論文270頁）として、「科举学」を定義している。劉氏が唱道する「科举学」という言葉は、田建栄「科举学：理論・体系与方法」（『広西大学学報（社科版）』2000年第2号）、張亜群「科举学的文化視覚」（『厦門大学学報（哲学社会科学）』2002年第4号）などの如く、論文の表題に一般的に使われており、近年、国外では一つの学問分野として確立している。2005年9月には、厦門大学において最初の「“科举制与科举学”国際シンポジウム」が開催された。

海外の研究動向を踏まえると、日本国内においても「科举学」が一つの学問分野として認知されつつあり、国外における研究の急速な進展に対応するため、国内における研究基盤の整備が急がれている。

2. 研究の目的

本研究は、科举制度が成立し、随時その制度に対して変更が加えられることにより、中国の文化がどのような影響を受けたのか、多方面から解明することを目的とする。

3. 研究の方法

科举を機軸に据えた文化史研究の歴史が浅いことに鑑み、国内及び海外の科举な学研究者と研究交流を進め、国際的な学術動向を踏まえた科举研究の国際的ネットワーク協力関係を構築することを目指し、国内外の中国学の発展に寄与する。

同時に、先行研究を整理して問題点を整理すし、科举関連文献の訳注を作成し、科举制度の運用面における実態と知識人がその中で如何に対処したかを把握するために必要な文献を広く利用しやすい形で提供することを目指す。また、八股文の学術的価値、試験官の好みや採点基準、あるいは出題傾向の変化など、これまであまり光が当てられなかった要素に着目し、科举の実態の究明を行なう。

4. 研究成果

研究代表者および研究分担者は、科举学に関する資料の収集に努め、科举学研究者を擁する海外の大学との学術交流を推進した。研究代表者は、2008年9月20・21日には学習院大学東洋文化研究所・台湾大学哲学系・韓国成均館大学哲学系が主催した「東アジアの陽明学」国際シンポジウムに招聘され、科举の経学について資料収集し、研究発表を行うと共に韓国、台湾、国内の研究者と中国近世の科举学について意見を交換した。また、研究分担者は、2008年10月14・15日には中国天津市教育考試与評価研究所・北京大学歴史文化研究所・厦門大学考試研究センター・中国社会科学院歴史研究所が共同で主催した第四回「科举制と科举学」国際学術シンポジウムに招聘され、科举学に関する研究発表を行い、最新の研究動向と今後の研究交流について協議した。さらに、研究代表者および研究分担者は、2008年11月23・24日には中国北京市で北京大学中国古文献研究中心が主催した「中国經典文献詮釋芸術国際学術研討会」に招聘され、科举学の経学に関する資料収集と研究発表を行い、中国、シンガポール、台湾、米国の研究者と学術討論し、研究交流を深めた。また、2008年11月29日には二松学舎大学で開催された『論語』に関するシンポジウムに参加し、国内の研究者との交流を進めた。

研究の最終年度に当たり、研究代表者及び研究分担者は、東北大学大学院文学研究科中国化学講座（代表：三浦秀一教授）と共同して、中国の科举学会である「中華炎黄文化研究会科举文化專業委員会」（代表：北京大学歴史系張希清教授）及び台湾国家科学委員会研究計画「清代經典詮釋方法與理論的轉向」（代表：台湾大学鄭吉雄教授）の協力を

得て、2009年8月8日(木)・28日(金)に、北海道大学百年記念會館及び人文社會科學総合教育研究棟において、「科举と中華伝統文化」を主題とする科举学国際シンポジウム—第5回「科举制と科举学」シンポジウム—を主催し、中国から15名、台湾から5名、日本から10名、韓国から1名の科举研究者を招聘し、科举学の最新の研究成果を発表してもらおうと同時に、今後の研究協力について協議した。本シンポジウムの報告内容は、北海道大学中国文化論講座(代表:佐藤鍊太郎)編集『國際科舉研討會—第五屆科舉與科舉學研討會—報告論文集』(2009年8月26日発行、中国語A4版434頁)に記載の通りである。本研究により国内及び海外の科举学研究者との研究交流が進捗し、国際的な學術動向を踏まえた科举研究の国際的連絡と協力関係を構築することができた。また、學術交流を通じて、科举制度史のみならず、科举と思想(特に經学)、文学、歴史、社会学、教育史などとの関わりに関する新たな知見が得られ、科举学に関する研究水準を高めたという内外の評価を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計15件)

- ① 水上雅晴「清代科举中の策問—以乾嘉期重視策問的現象為考察中心—」、劉海峰主編・鄭若玲副主編『科举学的形成与發展』、華中師範大学出版社、2009、605~621頁、査読有
- ② 水上雅晴「清代科舉における策問—策問に對する考官の重視と漢學家官員の“再生産”」、『中國哲學』第37号、2009、1-33頁、査読有
- ③ 近藤浩之「中國古代における文法的説明による論證とその形式」、『中國哲学』第37号、2009年1-54頁、査読有
- ④ 佐藤鍊太郎「明清時代対王学派的批判」、『國際明清學術思想研討會會議資料』、武漢大学哲学学院、2009、43-59頁、査読有
- ⑤ 水上雅晴「大田錦城の經学について—江戸の折衷学と清代漢宋兼採の学—」、『東洋古典学研究』24号、2007、115-133頁、査読有
- ⑥ 近藤浩之「『戦国縦横家書』蘇秦紀事本末案」、『中国哲学』第35号、2007、81-115頁、査読有
- ⑦ 佐藤鍊太郎「宋明時代の心学と『易』」、『中国哲学』第35号、2007、235-250頁、査読有
- ⑧ 山際明利「北宋における官吏任用の一傾向—張載の場合—」、『中国哲学』第35号、2007、167-188頁、査読有
- ⑨ 弓巾和順「『論語鄭氏注』から『論語集解』へ」、『中国哲学』第35号、2007、117-135頁、査読有
- ⑩ 弓巾和順「『論語』学の形成時期における『論語鄭氏注』試訳」、『名古屋大学中国哲学論集』第6号、2007、47-74頁、査読有
- ⑪ 近藤浩之「『孟子』萬章下篇「其至爾力也、其中非爾力也」の再解釋」、『中國哲學』第34号、2006、89-108頁、査読有
- ⑫ 水上雅晴「明經博士家の『論語』解釈—清原宣賢の場合—」、『「東アジアの經典解釈における言語分析」第一回國際學術シンポジウム予稿集』、2006、1-31頁、査読無
- ⑬ 弓巾和順『論語鄭氏注』的思想特色、「東アジアの經典解釈における言語分析」第一回國際學術シンポジウム予稿集』、2006、151-164頁、査読無
- ⑭ 近藤浩之「神明」的思想—以『易』傳為中心「東アジアの經典解釋における言語分析」第一回國際學術シンポジウム予稿集』2006、41-48頁、査読無
- ⑮ 佐藤鍊太郎「心外無法」的系譜—禅学、心学、陽明学、与武道」、『「東アジアの經典解釈における言語分析」第一回國際學術シンポジウム予稿集』別冊 pp.1-4 2006、査読無

〔学会発表〕(計12件)

- ①水上雅晴「清代學術與科舉：乾嘉時期學風變化引起的現象」、第六屆「科舉與科舉學」國際科舉研討會、2010.3.28、杭州華北飯店
- ②水上雅晴「清代科舉與策問—考官重視策問的實態以及漢學家官員的“再生產”」、第五屆「科舉與科舉學」國際科舉研討會一、2009年8月28日、北海道大學百年紀念館
- ③水上雅晴「清代科舉的策問：以乾嘉期重視策問的現象為考察中心」、第四回「科舉制と科舉學」學術シンポジウム、2008年10月14日、中国天津市教育考試与評価研究所
- ④近藤浩之「桃源の易學與柏舟の易學」、中国典籍與文化國際學術研討會、2010年3月8日、北京大學博雅國際會議中心
- ⑤近藤浩之「桃源《百衲襖》的《易》學」、第三屆「《易》詮釋中的儒道互動」國際學術研討會、2009年10月24日、台湾国立台湾大学中文系
- ⑥近藤浩之「中国古代における措辞形式による論証——告子の仁内義外説の場合」北海道中国哲学会第38回大会、2008年8月9日、北大文学部
- ⑦近藤浩之「重新考察馬王堆帛書：以<<周易>>為例学」、2007 中国帛書学國際論壇、2007.11.101、台湾国立台湾大学中文系
- ⑧弓巾和順「中国思想と『論語』解釈」、第4回シンポジウム『論語』～現代に生きる『論語』～、2008.11.29、東京・二松学舎大学
- ⑨弓巾和順「漢魏の『論語』解釈学」、第2回「東亜經典詮釋中的語文分析」國際學術研討會 2007.7.20 台湾・国立政治大学、
- ⑩佐藤鍊太郎「对于「学而時習之」歷代詮釈變遷」、中国經典文献詮釈芸術國際學術研討會、2008.11.24、中国北京大学博雅研究中心
- ⑪佐藤鍊太郎「王陽明的孔子觀」、「儒家哲學的典範重構與詮釋國際學術研討會」2007.5.27、台湾・東吳大学
- ⑫佐藤鍊太郎「禪与陽明学」、王陽明國際學術討論會、2007.4.27、中国余姚市余姚賓館

〔図書〕(計8件)

- ①佐藤鍊太郎・近藤浩之・水上雅晴ほか、北海道大学大学院文学研究科中国文化論講座『國際科舉研討會—第五屆「科舉與科舉學」研討會—報告論文集』、2009、434頁
- ②近藤浩之・水上雅晴・小幡敏行ほか、朋友書店、『易學哲學史』第四卷2009、406頁
- ③ 近藤浩之・弓巾和順・室谷邦行ほか、朋友書店、『易學哲學史』第一卷2009、450頁
- ④ 近藤浩之・山際明利・名畑嘉則ほか、朋友書店、『易學哲學史』第二卷、2009、639頁
- ⑤近藤浩之・室谷邦行・福田忍ほか、朋友書店、『易學哲學史』第三卷2009、534頁
- ⑥佐藤鍊太郎、日本武道館、『禪の思想と劍術』2008、385頁
- ⑦弓巾和順、大修館書店、『論語珠玉の三十三章』、2007、155頁
- ⑧佐藤鍊太郎ほか、晃洋書房、橋本高勝編『中国思想の流れ(下)』、2006、320頁 pp.11-14

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 鍊太郎 (SATO RENTARO)
北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40196291

(2) 研究分担者

弓巾和順 (YUHAZU KAZUYORI)
北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：20202393
近藤浩之 (KONDO HIROYUKI)
北海道大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：60322773
水上雅晴 (MIZUKAMI MASAHARU)
北海道大学・大学院文学研究科・助教
研究者番号：60261260
室谷邦行 (MUROYA KUNIYUKI)
北海道工業大学・総合教育研究部・教授
研究者番号：50210076
末岡 実 (SUEOKA MINORU)
フェリス女学院大学・文学部・教授
研究者番号：70187607
山際明利 (YMAGIWA AKITOSHI)
苫小牧工業高等専門学校・教授
研究者番号：20249717
名畑嘉則 (NABATA YOSHINORI)
藤女子大学・文学部・教授
研究者番号：30228077
小幡敏行 (OBATA TOSHIYUKI)
横浜市立大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：10285158

(3) 連携研究者

無し